

# 下唐子センター整備

## 今期 5億円を投じ着手

# 売上高35億円めざす

【埼玉】大沢運送（大澤隆社長、埼玉県東松山市）は6月にも、5億円を投じて下唐子物流センター（東松山市）の整備に着手する。一度に行う投資額としては、同社では最大規模。現場での対応力を強化することにより、2018年3月期の売上高は前期比6・5%増の35億円を目指す。4月22日開いた安全大会で、大澤社長が明らかにした。

## 大沢運送

（小瀬川厚）



「攻めの姿勢で全員営業を徹底して欲しい」と大澤社長

19年3月期までの3カ年の中期経営計画の2年目となる今期は、新拠点の開設に加え、運行効率の向上に取り組み。関西、中部・関東の幹線輸送、荷役、保管、配送などを一括受注することで大口顧客の取り込みを図る。新物流センターは、積部門を移管する。運行効率の向上では、自動配車システムを活用してトラック、倉庫の空きスペースを有効活用するほか、

トラック1台に複数のドライバークルを充て、1日当たり2回運行することで車両の回転率を上げる。また、時間外労働の削減に向けた取り組みを各拠点で本格化する。

今期の経営計画について

# 事故30%削減図る

## ヒヤリハット活用で

【埼玉】大沢運送は4月22日、安全大会を開き、全社一丸による事故撲滅を誓った。大澤隆社長が「前期の輸送、保管などの品質面の不適合（事故）件数は、前の期に比べ9・5%減少したが、今期は30%超の削減を図る。ヒヤリ・ハットを活用した安全・品質活動に取り組む。各拠点でも危機感を共有して目標を達成して欲

て、大澤氏は「攻めの姿勢で全員営業を徹底して欲しい。設備投資に加えて『業績管理シート』を導入し、顧客別の売り上げ、労働時間といった多面的な分析を行えるようにする。中計の最終期となる19年3月期に売上高37億円、3年間の売上高経常利益率は6・0%を達成したい」と説明した。17年3月期の売上高は、前の期比5・3%増の32億5800万円を確保できる見通し。売上高としては過去最高で、既存荷主に加えて新規開拓した荷主が売り上げを押し上げた。12月には西日本物流センター（滋賀県東近江市）に第13倉庫を稼働させたほか、トラック12台、フォークリフト4台などの設備投資を行った。

しい」とあいさつ。式典では、40年勤続の小川昭夫氏（埼玉支店）ら勤続5年以上の従業員12人を表彰。200万円の無事故の藤田正樹（同）、安斎義隆（同）の両氏を含む6人に無事故賞を贈ったほか、ベストドライバー賞など8つの社内表彰制度のうち、最高荣誉となる社長賞に小寺秀明（滋賀支店）、川村泰之（同）、三好崇司（新埼玉物流センター）の各氏が選ばれた。浅野光一（埼玉支店）、蛭間栄二（新埼玉物流センター）の両氏による安全宣言に続き、大澤浩取締役名誉会長があいさつを行った。

このほか、アネスト・パートナー・オフィス代表の西村孝行氏を講師に招き、安全講習を実施した。

（小瀬川厚）